まえがき

信州大学教育学部自然地理学研究室では，毎年夏休み後半に地理学野外実習を行う。地理学野外実習とは，長野県外を調査地域に選定し，各個人が各々の問題意識のもと現地調査を行い，結果をまとめて調査報告書を作成する実習である。野外実習は現地で 4 日間にかけて行われるが，事前の準備として 3 回，場合によっては 4 回の事前指導を行う。指導教員である廣内先生を中心に，現地での調査内容やその優位性を十分に議論したのちに調査が行われる。さらに，現地での調査が終わったのちには，事後指導がこれまた 3 回程度行われ，報告書の作成へとつながっている。

2016 年度の地理学野外実習は，2016 年 9 月 18 日～23 日の 5 泊 6 日の日程で実施し，山口県で行われた。野外実習は前半 2 日間の全員で現地のスポットを見て回る巡検と，後半 4 日間の個人調査に分かれて行われる。

今年度の実習参加者は，鈴木，中村，水谷，米原，明間，荻野，小保田，中澤，花里，早田，原，平澤の学生 12 人と引率の廣内先生を含めた 13 人であった。例年のように，他の研究室の学生も実習に参加した。

参加者は各自電車や新幹線で集合場所である新山口駅に集合し巡検が始まった。初日は木戸山西方断層露頭，長登銅山文化交流館，秋吉台などを見て回り，「一福旅館」に宿泊した。秋吉台は日本でも代表的なカルスト地形を見ることができるほか，秋芳洞をはじめとする 400 か所以上の鍾乳洞を見ることが出来る。学生たちは，現物のカルスト地形のスケールや様相を肌で感じ，感動している様子であった。２日目の巡検は，石柱渓，仙崎・青海島，津黄龍宮の潮吹，特牛港貝化石などを見たのち「遊福旅館」にて宿泊させていただいた。

遊福旅館では，特別に広めの一室をお借りし，20 日（実習 3 日目）の個人調査に向けてのミーティングを行った。事前指導で考えていた調査内容はもちろんのこと，調査地域へのアクセス方法，インタビューの予約，宿への帰宅時間を一人一人入念に確認し，3 日目の個人調査に備えていた。野外実習は基本的には学部 2，3 年生が中心になって行われている。4 年生は実習中，2，3 年生の補助としてサポートしている。私も，3 年生のハンドオーガーの手伝いや，山口名物ふぐの競りなどに同行するほか，レンタカーなどの運転などでサポートさせていただいた。

学生たちは長野県に帰ると，先に書かせていただいた事後指導により廣内先生からご指導をいただき，忙しい時期に平行して調査報告書を書き上げる。本書はその成果をまとめ上げたものである。おおよそ論文形式の文章やイラストレーターなどを用いた図の作成は初めてに等しく，皆試行錯誤しながら自身が山口県で得たデータや成果を分析しまとめていることだろうと思う。その努力の感じながらこの報告書を読んでいただけると幸いである。

最後に，調査にあたってお忙しい中，地図や資料の収集，聞き取り調査にご協力いただいた各行政機関，団体，地域の皆様，会社や個人の方々に心から御礼申し上げ，ここに感謝の意を表します。

平成 30 年 3 月 8 日

米原和哉（信州大学自然地理学研究室 OB）

2016 年度地理学野外実習報告書IX
下関
【目次】

まえがき

響灘南東岸安岡地域の段丘地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
小保田春加

災害の少ない地域の学校と子どもたちの災害・防災意識・・・・・・・・・・・・・８
荻野貴大

高潮・津波災害に関する防災意識調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
花里哉歩

平成 22 年 7 月豪雨における下関市菊川町内の浸水被害・・・・・・・・・・・・・２９
原知弘

下関唐戸地区における観光地開発の周辺地域・住民への影響・・・・・・・・・・３６
明間奈津紀

長府商店街の活性化についての現状及び課題分析・・・・・・・・・・・・・・・・４５
中澤航佑

グリーンモール商店街の変遷と商店街の現状分析・・・・・・・・・・・・・・・・５５
早田圭佑

南風泊水産加工団地及び「下関ふく」ブランド発信の課題・・・・・・・・・・・６４
平澤賢

あとがき